

指定名	確かな学力育成推進校	学校名	永谷高等学校
題名	永谷高等学校の現状把握とこれからの研究の展望		
<p>(1) 発表の概要  「生徒向けアンケート」(685 名分回収、10 月～11 月実施)、「校内教員対象アンケート」(45 名分回収、10 月実施) から判明した永谷高校の現状および確かな学力育成に向けた展望を発表する。</p> <p>(2) 確かな学力育成のイメージ  確かな学力(基礎的・基本的な知識や技能、学ぶ意欲、主体的に学ぶ力、課題解決能力など)を育成するにあたり、「教科指導と生活指導は車の両輪である」ことを念頭に進めていく。落ち着いて集中して取り組むことの出来る学習環境を成立させることが教科指導の前提であり、また知識や技能にとどまらない幅広い「学力」をつける教科指導は必然的に生活指導的要素が内包されるからである。</p> <p>(3) 確かな学力育成の目標  教員対象のアンケートの「永谷生にどのような力を身につけてほしいか」という質問で、学業に関する項目では、5 技能のなかでも特に「聞く力」をあげた回答が多かった。人間形成に関する項目では、社会やルールを守る力、コミュニケーション能力、困難を乗り越える力、向上心、などがあがった。</p> <p>(4) アンケートから浮かびあがってくる永谷高校の現状(生活面)  基本的な生活習慣に課題があり、「時間を守る」とか「自己管理」をしっかりとすることを指導する必要がある。</p> <p>(5) アンケートから浮かびあがってくる永谷高校の現状(教科指導面)  「中学校の学び直しをしてほしい」「中学校のときにもっと勉強しておけばよかった」とする生徒が多く、学び直しには生徒の潜在的／顕在的ニーズがある。また、不得意科目の苦手意識は小学校段階から生まれている生徒が多く、初等教育段階からの学び直しが重要である。</p> <p>(6) 目標実現に向けての手段  生活指導面においては校内ルールの見直しをはかるとともに、教員一人ひとりが共通意識をもって指導することによって生徒の規範意識を向上させていきたい。また、アクティブラーニングの視点に基づく授業や ICT 機器を活用した授業の実践などにおいて教員間で工夫を共有する機会を多く設けたり、学び直しのための学校設定科目の設置や少人数展開に向けた検討を行ったりなどしていきたい。</p>			